



稲作技術情報

令和3年産米の生産に向けて

令和2年産米は、7月の低日照による下位節間の過剰伸長を原因とする倒伏や、登熟期間の高温障害により品質低下を招きました。令和3年産米は、品質の高位安定化を図るため「倒伏防止技術」として5つの柱を基に、気象変動に左右されない米生産に向けて取り組みましょう。

気象に左右されない、品質の高位安定化を図る5つの柱
～倒伏防止技術の再徹底～

- ① 土づくりと根域の確保
 - ケイ酸・鉄成分による根の活力強化と維持
 - 耕深15cmの確保による根の環境整備
- ② 中干し開始時期の徹底
 - 気象・生育に応じた中干し実施による茎質の向上と穂数過剰の防止
- ③ 適正生育量に調整出来る肥培管理の徹底
 - 土壌に応じた基肥の減肥と、穂肥に重点を置いた肥培管理
 - 品質確保に向けた元肥一発肥料の施用方法周知
- ④ 適期刈取りの徹底
 - 刈遅れ防止に向けた段播き(移植時期に合わせて播種時期を変える)による作期分散
- ⑤ タイムリーな情報発信
 - メール配信やアグリルック道路わき立て看板等の多様なツールを活用した迅速な技術対策の発信
 - 本年度より新たに「LINE」を活用した情報発信に取組みます

1. 作業計画目安・・・田植えが5日以上かかる場合は、段播きを実施しましょう！

移植日に合わせて育苗計画を立てましょう。

2021年 健苗計画カレンダー

【作業日数 塩水選：1日 種子消毒：1日 浸種：12日 催芽：2日 播種：1日】

移植日	4 月																														5 月		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
① 5月 8~9日	①塩水選	①種子消毒	①浸種												①催芽	①播種																	
② 5月 15~16日								②塩水選	②種子消毒	②浸種												②催芽	②播種										
③ 5月 22~23日															③塩水選	③種子消毒	③浸種													③催芽	③播種		

- ①は5月8日から5月9日に移植予定
- ②は5月15日から5月16日に移植予定
- ③は5月22日から5月23日に移植予定

令和3年産米用コシヒカリBL種子の休眠情報

発芽試験では、休眠が「深い」と推定されています。浸種日数を例年より多めにとり、**積算温度120℃**を目安に行いましょう。

【稚苗育苗様式別の日数目安】

育苗様式		育苗日数	催芽期間	浸種期間	浸種から田植えまでの日数
ハウス	加温	18～23日	2日	10日	
	無加温	20～25日	2日	10日	32～37日
露地プール	加温	22～27日	2日	10日	34～39日
	無加温	25～30日	2日	10日	37～42日

※無加温や露地プールの場合、天候に左右されやすいため、気温が高くなる4月20日以降の播種をおすすめします。

2. 塩水選・・・充実した種粉を選別

- 種粉を入れた後に棒などでかき混ぜ、底に沈んだ充実した種粉を使用してください。

※なお、塩水選後は、種粉をよく水洗いしてください。
塩分が付着した状態で温湯消毒等を行うと極端に発芽率が低下する恐れがありますので、特に注意が必要です。

塩水の作り方：水10ℓ当たりの食塩

区分	水の量	食塩の量
うるち (比重1.13)	10ℓ	1.9kg
もち (比重1.08)		1.1kg



3. 種子消毒・・・種子伝染病害の防除

(1) テクリードCフロアブル

ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、褐条病等に適用のある薬剤。消毒後は水洗いせずに、浸種を行ってください。

使用時期	処理方法	同一薬剤の使用回数
浸種前	200倍液・24時間浸漬	1回のみ
	20倍液・10分間浸漬	反復使用可能
	原液を粉1kg当たり5ml塗抹（原液の場合）	—

(2) タフブロック

ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、褐条病等に適用のある微生物農薬。水換えは必要に応じて行いますが、効果を安定させるために静かにゆっくり行いましょう。

使用時期	処理方法	同一薬剤の使用回数
催芽時	200倍液・24時間浸漬	1回のみ
催芽前	200倍液・24～48時間浸漬	

※タフブロックの効果が低下することから、ダコニール剤との併用は行わないでください。

◎薬剤使用量の目安（テクリードCフロアブル・タフブロック）

種粉の量	水の量	200倍液	20倍液
5kg	10ℓ	50 (ml・g)	500 (ml・g)
10kg	20ℓ	100 (ml・g)	1,000 (ml・g)
25kg	50ℓ	250 (ml・g)	2,500 (ml・g)

(3) 温湯消毒の注意点

- 効果の安定と発芽率の低下を防ぐため、処理温度は60℃、処理時間は10分を厳守してください。
- 温湯消毒後は速やかに清水で冷却してください。

※消毒後～浸種までに時間が空くと種子に雑菌が付着する恐れがあるため、消毒後は早めに浸種に移りましょう。また、やむを得ず保存する場合は、十分に乾燥させて冷暗所で保存してください。

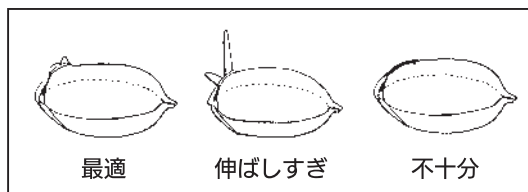
4. 浸種・・・十分に水を吸収させる

- 種粉 1 kg に対して水約 3.5 ℓ の割合の水量で行ってください。
- 休眠が「深い」と推定されるため浸種日数を例年より多めに取り、積算温度 120℃ を目安に行いましょう。
- 発芽率低下防止の為、浸種開始 24 時間は水温 10～15℃ を確保するよう努めてください。
- 水の更新は 2～3 日に 1 回行い、併せてネット内の種粉を混ぜ、ネットの天地返しを行ってください。
- 温湯消毒のみの場合は、雑菌を繁殖させないためにこまめな水の更新を行ってください。

5. 催芽・・・発芽を揃える

- 水温 30℃ で 24～48 時間が目安です。
※催芽終了は必ず発芽状態を確認してください。
※水温が 30℃ を超えると細菌性病害の発生が助長されます。
- 催芽ムラは播種ムラや出芽ムラなどに繋がります。

【ハトムネ状態の図】



※お願い!!

種子消毒等の残液、廃液処理及び、容器・器具の使用は適切に行ってください。

6. 床土・覆土の準備

(1) ご自身で混和作業される場合

分類	資材名	1袋の量	1袋で出来る箱数	1箱当り
床土	川西床土又は 育苗床土（ホーネンス）	20kg	8箱	2.5ℓ（約2.5kg）
覆土			16箱	1.25ℓ（約1.2kg）
床土 混和	ピートモス	50ℓ	62箱	0.8ℓ（4.5合）
	稚苗用苗代配合	10kg	330～400箱	25～30g

(2) ホーネンス培土を使用する場合

分類	資材名	1袋の量	1袋で出来る箱数	1箱当り
床土	ホーネンス培土1号または ホーネンス培土1号Si	20kg	7箱	2.8kg（N：1.3g）
覆土	川西床土または 育苗床土（ホーネンス）	20kg	16箱	1.2kg

※培土にはすでに肥料、ピートモスが混和されています。

◎細菌性病害対策

分類	資材名	1袋の量	1袋で出来る箱数	1箱当り	使用時期
覆土	カスミン粒剤	3kg	150箱～200箱	15～20g	覆土前
育苗箱 全体	ダコニール粉剤	3kg	150箱～200箱	15～20g	播種前
	タチガレエースM粉剤	1kg	125箱～165箱	6～8g	播種前
播種時 灌注	ナエファインフロアブル ※1	250ml	500箱	0.5ℓ （1000倍液）	播種時

※1 ナエファインは 3 種類の苗立枯病菌（ピシウム、フザリウム、リゾープス）に適用があり、タチガレエース M や ダコニールを使用・併用している方は、ナエファインだけで同等の効果・省力化が期待できます。

～土をつくることから始めましょう!!～

根の活力維持と根域の確保で倒伏防止技術の徹底を行いましょ！

1. ケイ酸・鉄成分による根の活力強化と維持

高温や日照不足等、異常気象による悪影響を受けやすい稲の共通点として、根の機能低下や根量不足があげられます。根の質と量を向上させるために積極的な土づくり資材の施用を行いましょ。

- ケイ酸**：稲の根量が多くなるとともに、高温時に葉や穂の温度を上昇しにくくする効果が期待されます。また、葉や茎を硬く丈夫にし、耐倒伏性の向上が期待できます。
- 鉄**：根腐れを防ぎ、根の活力を維持する効果が期待できます。

2. ケイ酸・鉄成分のおすすめ資材

○**ケイ酸加里プレミアム 34** 40～60 kg/10a



◎おすすめの地域

- ・ケイ酸と加里が不足傾向の地域（六日町、五十沢、城内、石打、塩沢、中之島）

◎おすすめの圃場

- ・早期倒伏が見られる圃場（高含有ケイ酸による早期ケイ酸補給）
- ・高温障害の影響が大きかった圃場（高含有ケイ酸による早期ケイ酸補給）
- ・これから土づくりに取組む圃場（高含有・長い肥効により初年から効果を発揮）

特徴：高含有のケイ酸と緩効性（く溶性）の加里の効果により、長期に渡り効果が持続。
成分：ケイ酸34、加里20、苦土4、ホウ素0.1、鉄2～5、アルカリ分7～12

○**魚沼ロマンアイアンスター** 60 kg/10a



◎おすすめの地域

- ・地力が低く秋落ちしやすい地域（五十沢、城内、大崎、東、中之島、上田）
- ・鉄が不足傾向の地域（大巻、藪神、大崎、東、上田、湯沢）

◎おすすめの圃場

- ・ワキの発生が多い圃場
- ・黒ボクの圃場

特徴：ケイ酸、リン酸、苦土、鉄、腐食酸をバランスよく含んだ、万能土づくり肥料。
成分：ケイ酸12、リン酸8、苦土5、鉄9.5、腐食酸6、アルカリ17.5

○**みつパワー** 60～120kg/10a



◎おすすめの地域

- ・継続的に土づくりを行っている圃場（低コストでケイ酸補給）
- ・ごま葉枯れ病が発生した圃場（マンガン不足）

特徴：低コストでケイ酸、苦土による土づくり効果のほか、慢性的に不足しがちなマンガンを含み、ごま葉枯れ病対策に効果があります。

成分：ケイ酸25.1、マンガン10.0、苦土2.7、カルシウム21.7、鉄1.7

※JA 土壌分析結果や品質状況を元に地域を選定

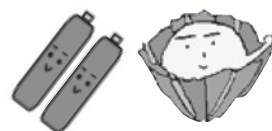
「水稲プラス園芸品目」の複合経営導入の推進

～園芸品目を導入して、さらなる所得確保を目指しましょう！～

1. 園芸品目の導入による農業生産の拡大 ～ズッキーニ・カリフラワー2毛作～

稲作と園芸品目による複合経営を検討されている方、
園芸品目導入に興味がある方へ

「ズッキーニとカリフラワーの2毛作」をご紹介します。



おすすめポイント

収穫時期が春・秋の稲作繁忙期と重ならず、どちらの品目も資材は少なくすみます。また、JAレンタル機械等の利用も可能なため、園芸品目未経験者の方でも、すぐに取り組みます。

作型例	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ズッキーニ			○	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
カリフラワー										○	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※同一ほ場 ○：播種 △：定植 ■：収穫

ズッキーニ



- ・難しい技術が必要なく、特別な資材も不要（マルチのみ）
- ・軽量野菜であるため、力作業が少ない

カリフラワー



- ・植え付け～収穫までの病害虫防除が少ない
- ・収穫期間は短期間で可能（品種の組み合わせにより、作期延長も可能）

2毛作の効果・共通メリット

- ① 地域推進品目であり、県内市場から評価も高く、販売価格が安定しています。
- ② ズッキーニ栽培後の畝とマルチをカリフラワー栽培に再利用できます。
- ③ 2毛作による輪作となるため、連作障害が出にくく次年度も同じ畑で栽培可能です。
- ④ JAレンタル機械等があるため、作業効率を上げられます。

●10a 当たり収支見込●

	ズッキーニ	カリフラワー	備考
収量	1,000箱×2kg/箱	300箱×6kg/箱	ズッキーニ：700株 カリフラワー：3,000株
売上	500,000円	360,000円	ズッキーニ：1,000箱×500円/箱 カリフラワー：300箱×1,200円/箱
費用	170,000円	135,000円	種苗費、肥料費、農薬費等
出荷経費	100,000円	83,000円	出荷販売手数料等
所得	230,000円	142,000円	

2. 農産物直売所を活用した有利販売 ～直売所で売れるスイートコーン～

夏の定番である甘くて色鮮やかなスイートコーンは、直売所で売れ筋品目です。出荷時期は6月下旬から始まり、お盆頃にピークを迎えます。多くの需要がある品目ですが、盆前・盆後の出荷量は少ない状況です。水稲の作業時期とかぶらない作型によって作期を拡大し、継続的な出荷で規模拡大、所得向上を目指しましょう。



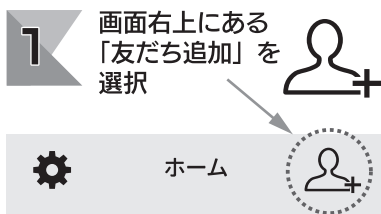
●水稲と作業時期がかぶらないおすすめ作型●

品目	作期	栽培方式	作型	6月			7月			8月			9月	
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
				直売所の出荷最盛期						出荷の狙い目				
スイートコーン	従来	マルチあり 移植栽培	極早生～中早生 (80～87日)	定植			収穫・出荷							
	おすすめ	マルチなし 直は栽培	中生 (88～90日)	播種						収穫・出荷				

※ 加温設備がある場合は、加温育苗による6月下旬からの出荷もおすすめです。

JAからのお知らせ

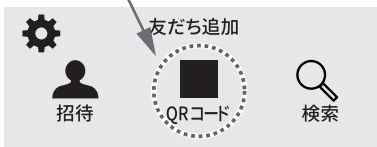
◎LINEはじめました!!



1 画面右上にある「友だち追加」を選択

登録方法

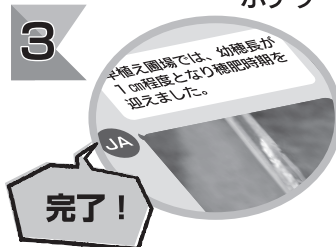
2 「QRコード」を選択



QRコードを
スキャン



「追加」を
ポチッ



完了!

農業者向け生産情報 を多数の方からのご登録をお待ちしております

併せて
↓

携帯メール会員募集!!

無料(通信料は除く)でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。登録方法がわからない方は、こちらで登録いたしますので、携帯電話を持参して営農指導課にお越しください。

beiko@net21-u.jp



予告

次回のJAみなみ魚沼営農情報誌あぜみちは、以下の通りです。

- ・稲作…播種～育苗管理
- ・園芸…連作障害対策

ご不明な点がございましたら、JAみなみ魚沼営農指導課
(アグリセンター大和 :Tel777-3786 しおざわ基幹センター :Tel782-1171)
までお問い合わせください。